

平成30年度(2018年度)

管理事業名	文化振興事業				総合計画の 体系	第4章 第4節	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり 多彩な文化が交流するまちづくり		
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 23	文化振興費		
部局名	都市魅力部	予算執行所属		文化スポーツ推進室					
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名								
文化振興事業									
一般事務事業									
文化功労者表彰事業									
<b>事業の目的と概要</b> 市民の文化活動の振興を図るため、幅広く文化事業を実施します。 《主な事業》 ・市民劇場等運営委託事業（音楽、演劇その他の幅広いジャンルから、優れた作品を安価に提供） ・ティーンズクラシックフェスティバル事業（才能ある将来性豊かな演奏家を発掘及び育成） ・市民文化祭事業（市民に芸術文化活動と芸術鑑賞の機会を提供） ・市展運営委託事業（創作意欲・技術の向上と身近な場での芸術鑑賞の機会を提供する公募美術展覧会を実施） ・南山市民ギャラリー事業（市民の芸術活動を発表する場を提供）									

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
市民劇場等入場者数	人	4,310	2,157	1,310	入場者数
ティーンズクラシックフェスティバル入場者数	人	1,429	270	304	出演者を含む入場者数
市展出品点数	点	339	-	298	出品点数、平成29年度は開催せず
市民文化祭参加者数	人	27,640	21,436	28,400	出演者を含まない市民文化祭参加者数
南山市民ギャラリー来館者数	人	4,387	3,825	5,064	来館者数
成果の説明	大阪府北部地震の影響を受け、平成30年6月18日以降文化会館大ホールの使用を休止しました。ティーンズクラシックフェスティバルは大ホールで行っていたコンクールが実施できなくなり、市民劇場は実施会場を大ホール(1397席)から中ホール(492席)に変更して3つの公演を開催し、それぞれ入場者数が減少しました。2年ぶりに開催した市展では、多くの市民から作品を出品いただき、力作ぞろいの展示となりました。市民文化祭では、外国人が日本の文化を体験する催しに取り組み、様々な人が文化活動に参加する機会を広げています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書 (単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	160	152	172	20
経常収入				
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	14,010	4,695	4,215	△480
経常収入 小計(a)	14,170	4,847	4,387	△460
経常費用				
給与関係費	31,522	32,191	44,175	11,984
物件費	31,835	24,158	28,248	4,090
維持補修費	-	31	-	△31
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	307	345	314	△32
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	228	228	228	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	1,977	2,005	2,743	738
退職手当引当金繰入額	△2,970	2,075	14,042	11,967
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	62,900	61,034	89,750	28,716
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△48,730	△56,187	△85,363	△29,176
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別支出				
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△48,730	△56,187	△85,363	△29,176
一般財源充当額	53,744	56,011	73,749	17,737
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	5,013	△176	△11,614	△11,439

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常収入その他	市民劇場等入場料収入 3,834千円、市展参加料収入 254千円、ティーンズクラシックフェスティバル参加料収入 120千円ほか
給与関係費	職員人件費、非常勤職員報酬、臨時雇用員賃金、審議会等委員報酬 事業従事職員数の割り振り変更に伴い、職員人件費が増額となりました。
物件費	市民劇場等運営委託料 17,521千円、市民文化祭委託料 2,744千円ほか 主に平成29年度に文化会館の休館の影響で事業を縮小したため前年と比べ増額となりました。

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	14,094	4,847	4,387	△460
行政サービス活動支出	67,838	60,859	78,136	17,277
行政サービス活動収支差額	△53,744	△56,011	△73,749	△17,737
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△53,744	△56,011	△73,749	△17,737
一般財源充当額	53,744	56,011	73,749	17,737
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
市民1人あたりのコスト	平成28年度	369,522 人	170 円	平成31年3月31日現在の吹田市人口で算出し、市民1人あたり242円のコストがかかっています。事業従事職員数の割り振り変更に伴い、職員人件費が増額となったことが主な要因です。
	平成29年度	370,072 人	165 円	
	平成30年度	371,030 人	242 円	
	平成28年度		円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	2,005	2,743	738
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	2,005	2,743	738
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	7,861	7,632	△228	その他流動負債	-	-	-
土地	-	-	-	固定負債	21,702	32,350	10,648
建物・工作物	7,861	7,632	△228	地方債	-	-	-
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	21,702	32,350	10,648
無形固定資産	76	76	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	23,707	35,092	11,386
建物・工作物	-	-	-	純資産	△10,270	△21,885	△11,614
建設仮勘定	-	-	-	重要物品	-	-	-
重要物品	5,500	5,500	-	図書館資料	-	-	-
図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
その他債権	-	-	-	資産の部合計	13,436	13,208	△228
資産の部合計	13,436	13,208	△228	負債及び純資産の部合計	13,436	13,208	△228

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

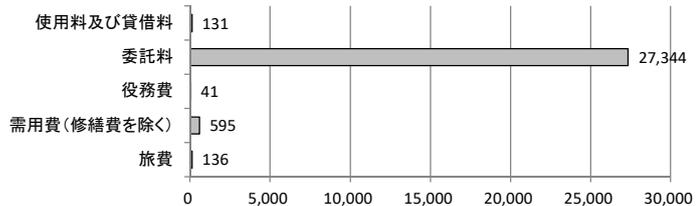
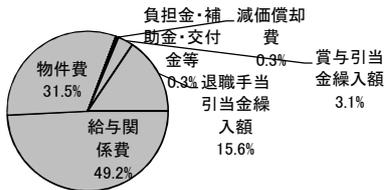
	常勤・再任用 月平均	非常勤 月平均	臨時雇用員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
事業従事人数	4.87人	1人	422日	12人	60,960
給与関係費等	54,258千円	2,790千円	3,778千円	134千円	
内、時間外勤務手当	1,961千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	南山田市民ギャラリー(建物)減価償却により228千円の減
無形固定資産	電話加入権
重要物品	絵画1点。増減無し。

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	南山田市民ギャラリー
取得年月日	平成16年(2004年)7月(供用開始)
建物・工作物の取得価額	11,420千円
建物・工作物の減価償却累計額	3,788千円
利用料金収入	172千円

▽分析指標

分析指標	年度			差 B-A
	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	
施設維持補修費比率	-	0.3	-	△0.3
施設老朽化比率	29.2	31.2	33.2	2.0
受益者負担比率	0.3	0.2	0.2	0.0
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	79.2	92.0	94.4	2.4
経常費用対公共資産比率	550.8	534.5	785.9	251.4

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は56.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

・経常費用のうち、物件費が31.5%、給与関係費が49.2%を占めています。物件費のうち96.8%が事業等の委託料が占めています。  
 ・平成29年度文化会館の休館により中止していた公募吹田市美術展覧会は再開しましたが、文化会館の大ホールで開催を予定していた市民劇場、ティーンズクラシックフェスティバル等は内容の変更や規模を縮小して開催しました。  
 ・にぎわいライブを新たに千里ニュータウンプラザエントランスホールで開催し、身近な場所で文化芸術の発表と鑑賞の機会を提供しました。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

幅広く文化事業を実施し、市民が文化や芸術に触れる機会を提供しています。事業の多くがこれまで本市の文化振興の拠点である文化会館を会場として開催しており、文化会館の休館期間(令和元年7月～令和2年8月)は大きな影響があります。文化会館の改修期間中は事業内容や会場を工夫して事業を継続し、市民文化の振興と発展に努めます。